

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名：

岡山大学病院

部局長名：

金澤 右

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
<p>①-1 目標 教育面では、優れた医療人を育成するため、医療スタッフへの教育・研修の充実を図るとともに、国際面での人材育成として、海外医療スタッフの研修受入を行う。 また、引き続き、卒前臨床実習と卒後臨床研修の体制を強化するとともに、初期研修からレジデント研修への連携を緊密にし、専門医研修プログラムの作成を行い、専門医の育成を推進する。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・国際面での人材育成として、民間NPOなどと連携し、海外から医師、放射線技師、臨床工学技士など5名を約3か月間、看護師2名を2週間、の研修を実施した。 ・中国、ミャンマー、エジプト、イギリスから外国医師・歯科医師を受け入れ、平成30年3月末時点で15名の臨床修練外国医師等を受け入れ教育・研修を実施した。また、外国医師等の受け入れ体制の強化として、指導可能な医師・歯科医師が平成30年3月末時点で137名となる体制を整えた。 ・医科研修部門では、医学部生を対象としたオープンホスピタルやマッチング説明会、医学部生・研修医の合同セミナーを開催し、継続して広報活動を行った。また、アンケートを行い、検証結果を卒後臨床研修会議や合同会議で共有し研修医獲得に取り組んだ結果、マッチング率95.7%となり、2次募集でフルマッチとなった。 ・歯科部門においても、院内外の学部生を対象とした説明会を開催し、平成23年以降継続してフルマッチを達成している。 ・医科・歯科研修部門では、研修医の指導体制充実のため、定期的に指導医養成講習会を開催し指導医数の増加を図っている。医科部門は、学内指導医を18名、協力型病院の指導医を18名、計36名増加することができた。 ・歯科研修部門では、シミュレーション実習であるが、訪問(在宅)歯科医療研修を新たに組み込んだことによって、超高齢化社会のニーズにある程度マッチした研修プログラムを作成した。 ・医科研修部門では、平成30年度新専門医制度開始に向け、各科・領域毎の専門医プログラムを整備し、各学会及び日本専門医機構による審査を受けた。卒後臨床研修会議及び合同会議において情報共有し、専攻医の選考を円滑に実施した。</p>
<p>①-2 全学の組織目標との関連 医療人の育成に関する目標との関連として、医療スタッフへの教育・研修の充実、卒前臨床実習と卒後臨床研修の体制強化、専門医研修プログラムの作成に留意した。</p>	<p>①-2 大学全体への貢献 ・卒前臨床実習と卒後臨床研修、更に専門医研修へのシームレスな教育プログラムを検討するとともに、初期研修及び専門医研修プログラムをなお一層充実したものにすることで初期研修医と専攻医の獲得につなげた。</p>
<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p>
②研究領域	
<p>②-1 目標 医療法上の臨床研究中核病院として、中国・四国地区の拠点病院の機能を果たすため、新たな医療の創成、先端的な医療の推進のための大規模な臨床研究及び治験の実施を行う。 橋渡し研究における研究拠点として、中国・四国地区を中心とした各病院のシーズの掘り起こしを行い、臨床研究、薬事申請へのスムーズな接続を支援する。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・ARO支援件数は、平成28年度58件から平成29年度66件(12月現在)と順調に増加している。特に医師主導治験においては、既存の5件に加え、今年度さらに5件追加して支援を開始した。 ・中央西日本コンソーシアムを基盤として、企業出資型研究者主導臨床研究と医師主導治験については、順調に被験者登録が進んでいる。 ・平成29年5月からPh1に対応した治験病床6床(CLR)を稼働させ、12月までに総被験者数47名について22件の治験を実施し、12月の月間稼働率は86%となった。 ・橋渡し研究における研究拠点として、研究者とシーズ支援を行うと共に、学内外でシーズの掘り起こしを積極的に行い、橋渡し事業の自立化を目指している。</p>
<p>②-2 全学の組織目標との関連 臨床研究及び橋渡し研究を推進する目標との関連として、医療法上の臨床研究中核病院として、新たな医療の創成、先端的医療を推進する臨床研究や治験を実施すること、橋渡し研究における研究拠点として、各病院のシーズの掘り起こし、臨床研究、薬事申請の支援を行うことに留意した。</p>	<p>②-2 大学全体への貢献 平成29年3月に中国・四国地区で唯一の「医療法上の臨床研究中核病院」に認定されたことより、中国・四国地区の医療機関の核となり臨床研究を支援し、日本における臨床研究の向上に貢献すること、また、「橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点」として中国・四国地区の大学、病院からの研究シーズ実用化へつなげる体制整備を本格化することにより、大学としてのプレゼンス向上に繋げることができる。</p>
<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p>

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名：

岡山大学病院

部局長名：

金澤 右

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
③社会貢献(診療を含む)領域	
<p>③-1 目標</p> <p>岡山県が構築した地域医療連携システム「晴れやかネット」の利用促進等により、地域医療機関との連携を強化するとともに、中核的医療機関としての機能を果たす。</p> <p>移植医療、遺伝子治療、再生医療及びロボット医療等、先進的かつ高度な医療(臨床研究・治験を含む)を安全に配慮しつつ推進する。</p> <p>医療安全・感染対策の対応強化を図るとともに、医療安全や感染対策に関する講習会を実施し、医療安全管理の意識向上を図る。</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) 社会貢献・地域連携について</p> <p>① 「晴れやかネット」に関しては、医療ネットワーク岡山協議会から「患者記載型同意書」を手配し、初診時に配布するだけでなく、再診患者にも周知できるよう、平成29年11月に外来棟1階や診療科の受付に新同意書を配置し、同時にサインージでの案内も開始した。平成30年3月には、入院説明時にも新同意書の配布を開始した。また、院内における利用促進のため、平成30年2月に運用講習会を実施した。</p> <p>② 岡山県がん診療連携拠点病院である本院は、第3期がん対策基本推進計画の策定にあたり、「がん第6回診療体制の質評価調査」に岡山県がん診療連携協議会として参加し、県内の拠点病院のPDCAサイクル評価の指針作成を進めた。また、岡山県から委託の第二次岡山県がん患者の就労調査アンケートを実施し、現在の第2期がん対策の評価指標となる、平成25～29年の5年間のがん患者と家族の就業状況の変化について統計解析を加え第3期の岡山県がん対策の指標を報告した。さらに、昨年に引き続き、2015年版岡山県がん診療連携拠点病院院内がん登録報告集を作成している。</p> <p>また、地域連携部会で検討を行っていた連携バスの改訂について、既に「乳がんバス」の改訂を終えている。がん看護部では、県共通がん看護教育プログラムに基づく各種研修会・セミナー等を実施し、歯科部会ではがん医療の均てん化を目指した研修会を12月に開催。さらに、研修教育部会は拠点病院内の医療従事者を対象としたがん化学療法チーム研修を9月に開催し、がんの学校教育を進めるための小・中・高等学校への講師派遣も積極的に行った。</p> <p>③ 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として、県内における診療水準の向上や均てん化を図り、医療従事者を対象とした研修会(9、3月開催)や患者等を対象とした肝臓病教室(5、8、11、2月開催)の開催、相談支援を行った。肝炎検査及び受診促進の普及啓発活動として、事業場等へ出向いての出張肝臓病教室(12回)、イベント会場の肝炎ウイルス検査の普及活動(8回)、また、7月の「世界肝炎デー」に合わせた企画として「無料肝炎検査キャンペーン2017」(2回)を実施した。さらに、保険者と協力し、被扶養者健診でも肝炎ウイルス検査を実施した。患者・家族支援の一環として、連携病院と協力し、患者サロン 肝臓病お料理教室を開催した。県内市町村、保険者等の関係団体と意見交換の場を持ち肝炎対策に関する技術支援を行った。</p> <p>2) 移植医療・遺伝子治療等について</p> <p>①臓器移植医療センターでは1例1例を個別に判定委員会において移植の適応を判断し、手術時及び周術期に安全に手術が行われるようであった。</p> <p>②低侵襲治療センターは、カンファレンスでの適応を慎重に検討した上で内視鏡外科手術を安全に推進し、その施行割合も上昇している。ロボット胃癌手術、肥満外科手術も安全に施行した。術者育成のための教育研修も計画通り3回開催した。本年度は内視鏡外科技術認定試験を院内から4名が受験し、技術認定医の増加が期待される状況である。</p> <p>3) 医療安全・感染対策について</p> <p>①薬剤師ゼネラルリスクマネジャーを配置することにより、医薬品関連のインシデント対策を強化した。マニュアルの見直しを行い医療安全対策を強化した。医療安全に関する職員全体研修を4回実施し、職員の医療安全に対する知識・認識を高めることに努めた。</p> <p>②感染対策として、講習会の受講率95%以上を達成できており、引き続き感染対策に関する意識の向上に努めたい。また、病院全職員を含む患者と接する業務に従事する全ての職員を対象とした「小児4種ウイルス疾患抗体価検査」を実施し、職員の抗体価の状況について把握することができた。今後は、検査結果をもとに、基準値に達しない職員に対するワクチン接種の勧奨を進め、職員を発端とした感染の拡大を防ぐための取り組みに活かしていく。</p>
<p>③-2 全学の組織目標との関連</p> <p>医療の質に関する目標との関連として、地域医療機関との連携を強化し、中核的医療機関としての機能を果たすこと、先進的かつ高度な医療を安全に配慮しつつ推進すること、医療安全や感染対策の対応強化や意識向上を図ることに留意した。</p>	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>1) 地域連携について</p> <p>総合患者支援センターは、センターニュース・院内だより・年報を継続して発刊し、院内外へ広報活動を行った。また、連携医療機関に対するアンケート調査を完了し、医療内容や晴れやかネットの加入状況を把握するとともに、アンケート内容についてはデータベース化を行い、連携医療機関認定証を再発行した。さらに医療機関訪問時の意見交換を通じて連携ニーズの調査を行い、FAX診療予約申込書の改訂や紹介時の宛名変更を紹介元に依頼しないルールに改定した。</p> <p>2) 高度な医療について</p> <p>臓器移植医療では判定委員会において移植の適応を判断し、手術時及び周術期に安全に手術を行った。低侵襲治療では、カンファレンスでの適応を慎重に検討した上で内視鏡外科手術を安全に推進した。</p> <p>3) 高度な医療について</p> <p>平成29年度から高難度新規医療技術、未承認新規医薬品・医療機器の導入に関して部門を設置し、諮問機関として評価委員会を置き審査体制を整備した。</p> <p>4) 医療安全・感染対策について</p> <p>医療安全職員全体において外部講師による講演を行い、医療安全に関する意識の向上に努めた。</p> <p>感染対策として、医療に関わる全職員の抗体価の状況を把握し活用することにより、職員の意識の向上、迅速かつ適切な対策をとることが可能となり、職員を媒介とした2次感染等院内感染発生時のアウトブレイクを防ぐ体制をとっている。</p>
<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p>

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

岡山大学病院

部局長名:

金澤 右

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
④管理運営領域	
④-1 目標 経営の健全度を評価するための経営分析ツールを活用し、科別収益分析やDPC分析等、客観的な経営分析を行い、病院経営の安定化を図る。 医療材料や医薬品等の使用状況等を分析・検討し、値引き交渉に利用する等、効率的かつ経済的な運用によりコスト削減に努める。 地域医療連携推進法人の設立について検討する。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・経営戦略会議において、病床稼働率、外来患者数等の経営指標について検証・分析し、また、MBO(目標管理)の達成状況について、各科の収益等の目標達成状況をチェック・フィードバックするなど病院の安定的経営に努めた。 また、医療材料・医薬品の使用実績等について分析し、値引き交渉等を行い、医療材料については対前年度▲0.45%(税抜き、平成29年12月末現在)、医薬品については対薬価▲13.49%(税抜き、平成29年4～9月実績)のコスト削減を図った。 ・地域医療連携法人については、市内6病院が協働と情報共有の事業連携によって地域により良質で安全な医療体制を構築するために、平成29年6月28日付けで「岡山医療連携推進協議会」を設立し、医療人材養成及び治験・臨床研究の連携を実施するための具体的な検討を開始した。
④-2 全学の組織目標との関連 病院経営に関する目標との関連として、経営分析ツールを活用し、客観的な経営分析を行うこと、医療材料や医薬品等の使用状況等の分析・検討し、効率的な運用によりコスト削減に努めることに留意した。	④-2 大学全体への貢献 経営分析ツール等を活用して、診療科別品目別の使用実績を分析、価格交渉を行うなどしてコスト削減を図り、大学全体の安定的経営、財務基盤の強化へ貢献した。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 医療収入、診療経費、病床稼働率	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 経営戦略会議において医療収入、診療経費、病床稼働率等の各種指標の検証・分析を実施、また、医療材料・医薬品値引き交渉等を行った結果、収益額は対前年度113,779千円の増収を達成した。(平成30年1月現在)
【総括記述欄】	
平成29年度の組織目標の達成状況は、病院全体として優れたものであったと考える。 教育領域では、医科及び歯科において、岡山大学病院で卒業臨床研修を希望する学生が定員を100%満たすフルマッチとなり、新専門医研修制度の準備を進めている状況など、堅実に行ってきたことが着実に結果に結びついている。国際化についても、JICA事業のミャンマー支援を行うとともに、院内の臨床修練指導医を137名とし、他職種の医療従事者を受け入れて数多くの診療科が研修を行うなど継続的、且つ、量的にも充実されつつある。 研究領域では、医療法上の臨床研究中核病院に認定され、先に採択された第3期橋渡し研究戦略的推進プログラムとともに基礎から臨床まで一貫して質の高い支援業務が行え、日本発の革新的医療シーズ等をいち早く実用化に繋げる体制が確立できた。 遺伝子治療や臓器移植手術、内視鏡手術ロボット手術においても順調に実施しており、移植医療については、脳死判定された6歳未満の小児から提供された両肺を、1歳の小児へ移植する手術に成功(脳死による肺移植では、国内最年少)、また、脳死提供された両肺の上部を組み合わせて左の肺を形成し、肺気腫の患者に移植する世界初の手術に成功など様々な新しい事例が増えており、「最後の砦」病院の使命を果せるよう日夜努力を続けている。	